

第9回原子力安全検証委員会 議事速報

1. 原子力安全への取組状況および監査結果

(1) 美浜発電所3号機事故の再発防止対策の発展的な再整理状況

美浜発電所3号機事故の再発防止対策の発展的な再整理状況等について報告し、審議。主なご意見等は以下の通り。

- 原子力の安全の捉え方をみていると、過去の事例や対策に固執し過ぎている気がする。日進月歩で技術が進歩しているので、新しいものはどんどん取り入れて、完了したものはどんどん削っていった方が、むしろ積極的な安全性向上につながるのではないか。(安部委員)
- 協力会社向けに美浜発電所3号機事故のライブラリを提供したことについて、レスポンスはどうか。協力会社の方の意見等をフィードバックして、提供の仕方や内容を考えることが必要である。見ていただいていなければ、提供の方策等を考えることも大事である。(加賀委員)
- 美浜発電所3号機事故の歴史をいかしながら、新しいことが加わっていることを表現できればよりよい。踏襲することは大事だが、勢いを感じさせることが必要だと思う。美浜発電所3号機事故から次の新しいステップに移っていることを感じさせるために、全部は無理なのでどこか一部分でも、新しさを感じさせる言葉があれば、効果的で、さらによくなると思う。(橋詰委員)
- 美浜発電所3号機事故の再発防止対策の行動計画、実施項目について、定期的に見直す仕組みやルールを明確にしておくべきではないか。(岩崎委員)
- 継続する取組みについても、継続という表現だけでは同じことを繰り返しているだけのようにみえるので、バージョンアップしているものについては、そのことを具体的に明確にした方がよい。(渡邊委員長)

(2) ロードマップの詳細計画の整備状況および進捗状況、ならびに社達の理念を踏まえた具体的な実施状況

「原子力発電の安全性向上に向けた自主的かつ継続的な取組みのさらなる充実」に向けてとりまとめたロードマップの詳細計画の整備状況および進捗状況、ならびに社達の理念を踏まえた具体的な実施状況・同監査結果について報告し、審議。主なご意見等は以下の通り。

- リスクコミュニケーションの活動に関して、住民の皆さま等から意見をいただき、それに対して真摯に対応している様を公表すれば、さらに信頼感を得ることができるのではないか。（加賀委員）
- ロードマップの進捗管理において、計画通り進捗しているか等を管理するためには、例えば半期毎にどのような姿になっているべきか等、マイルストーンを決めておく必要がある。（岩崎委員）
- 避難計画・防災訓練は専門知識等が必要であり、同じ者が継続して担当することが望ましいが、行政側は短期間で交替することを考慮すると、電力において強力な協力体制を構築していくことが重要である。（安部委員）
- INS S（㈱原子力安全システム研究所）は、リスク分析（国際情報のスクリーニング等）等において、重要な役割を果たしていると思う。企業の財務状況が厳しくなったときには研究部門などが経費削減の対象となるが、リスク分析には専門性が必要であり、長い目で見て、是非INS Sを残して欲しい。（安部委員）
- 原子力事故に関する地域の方の意識を深めるためにコミュニケーションを密に行い、避難において混乱に陥らないよう内容（役割分担など）まで決めて具体的な訓練を行って欲しい。（橋詰委員）

2. 原子力安全検証委員会からいただいたご意見を踏まえた取組状況

原子力安全検証委員会からいただいたご意見を踏まえた取組状況について報告し、審議・了承。主なご意見等は以下の通り。

- 「継続的な改善」には、今までのやり方の踏襲ではなく、さらなるスパイラルアップという意味を含んでいる。そのためには、今までの活動の成果と残された問題を明確にしていくプロセスを大切にしたい。（岩崎委員）

以 上